

令和2年度入学者選抜試験問題

国語(前期日程)〔解答例〕

一

問1 a 浸透 b 丘陵 c 交易 d 仰天 e 文献

問2 目の前にいる親しい間柄の人間よりも、ネット越しの知人にこそ礼儀も注意も払わなくてはならないという「強迫観念」を覚えること

(目の前にいる親しい間柄の人間といるときよりも、スマートフォンやスマートフォンのメッセージの通知音がなるたびに、まるで脊髄反射のように画面を覗かなければならないという「強迫観念」を覚えること。)

問3 物理的に社会空間を共有していない人間とも、インターネットを通して実質的に社会的に作動する空間を共有しながら、生活できるような特性。

問4 彼が私にほどこした贈与は、わたしたちがそのことを記憶し続ける限り継続される種類の贈与であり、何よりも友愛の念を示すための贈り物であるのに対し、自分が普段住んでいる世界における贈与は、物質的な財産を誰かに手渡すことで完了してしまうものになってしまっており、それは自分たちの「所有」や「共有」の定義の狭さや貧しさを表していることに気づいたから。

問5 インターネットは、物理的な社会空間を共有していない人ともつながっているという共在感覚を可能にするが、モンゴルの人に提供された贈り物は、遠い距離と長い時間を超えて持続する思いをわたしのなかに根付かせたという意味で、インターネットを介さずに生まれた共在感覚であるということ。

二

問6 ②推量の助動詞「ん」の連体形 ⑦過去の助動詞「き」の連体形

問7 ひさかたの、ちはやぶる

問8 ④どうということであろうか。 ⑧傍らにおいて、後回しにしてなど。

問9 力まかせに手勢で押し寄せる。味方の軍勢を集めてから夜明けに攻める。ことの是非を上位者に裁決してもらおう。味方の小家を敵に攻めさせて終わりにする。以上のような内容で意見が3点書かれていれば可。

問10 烏羽玉は箱の外に出すとその差す光で世間が暗くなり、中にしきると世間が明るくなる、普通の光と異なる不思議な光を発する玉であるから。

問11 烏家ではこれから戦をするための評議をしているのに、烏羽玉の由来語りに話しがとび、そこでは烏が殺されて烏羽玉が人の手に渡ったとか、烏羽玉は敗戦で逃げるのに便利であったとか、烏が死んだり、烏に因む宝の玉が敗走に関わるといって話しになったから。

問12

傍線部①、②の漢字の読みを送り仮名も含めてすべて平仮名で記しなさい。

↓ ①よく ②すくなし

問13

傍線部A「莫如猛」を書き下し文にし、現代語に訳しなさい。

↓ 書き下し文「猛に如くは莫し」 現代語訳「猛（厳格であること）に及ぶものはない」

問14

傍線部B「吾早従夫子、不及此」を「夫子」が誰を指すか、また「此」が何を意味するかの二点を明らかにしながら、現代語に訳しなさい。

↓ 現代語訳「わたしがもつと早くあの方（子産）の言葉に従っていたならば、このような状況（盗賊が人を脅かし物を奪い取るので、それを鎮圧しなければならない）に至ることはなかったであろう」

問15

傍線部Cは「徒兵を興して以て萑苻の盜を攻め、尽く之を殺す」と書き下します。それに従って返り点と送り仮名を加えなさい。

↓ 興<sup>テ</sup>徒<sup>ヲ</sup>兵<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>攻<sup>メ</sup>萑苻<sup>ノ</sup>盜<sup>ヲ</sup>、尽<sup>ク</sup>殺<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。

問16

空欄 X Y Z にあてはまる漢字一字を、それぞれ次の中から選んで答えなさい。ただし、同じ字を重複して用いてはならない。

↓ X 寛 Y 猛 Z 政